



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院より、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

携帯サイトへ！



九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー 2015

「ヘルスケアのまちづくり ～いま描く、10年後の未来～」

- 主催：九十九里コミュニティヘルスケア協議会
- 共催：地方独立行政法人さんむ医療センター、NPO法人地域医療を育てる会、城西国際大学 ●後援：山武市・東金市・九十九里町
- 実行委員長：篠原靖志（さんむ医療センター 病院長） ●プロジェクトリーダー：川上総士（さんむ医療センター地域医療連携室長・内科医）

本取組は、平成 24年度大学改革推進等補助金 大学間連携共同教育推進事業『実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（千葉大学、城西国際大学、千葉科学大学）』の補助を受けています。

九十九里地域におけるヘルスケアに携わる人材育成とヒューマンネットワークの構築を目的として、九十九里コミュニティヘルスケア協議会が発足しました。前身である医療夏期セミナーから数えると通算7回目となる今年の夏期セミナーは、8月29日、30日の両日で開催されました。基調講演は、東埼玉総合病院の中野 智紀 医師とコミュニティカフェ「元気スタンド・ぶりズム」の小泉 圭司 店長をお招きし、『医者とカフェ店長が描くヘルスケアコミュニティの未来』についてお話をいただきました。



中野 智紀 医師

小泉 圭司 店長

本セミナーでは、参加者それぞれが地域のコミュニティヘルスに関わるフィールドを視察します。初日に生活支援フィールド、地域ケアフィールド、予防・保健フィールド、在宅医療フィールドに分かれて活動し、ナイトセッションや2日目のグループワークを通じ、地域のコミュニティヘルスについて議論を交わしました。

セミナーで学び、得られた課題に対する解決策を **地図** に表現し、『10年後の豊かなまちづくり』を提案！！



2日間のセミナーには、様々な学部の学生や多様な職種の専門家が参加してくれました。「地域」へ実際に足を運び、「地域生活者」やヘルスケアに関わる専門家と話をすることで、「何か」に気付き、考えさせられたと思います。皆さんも「自分の地域の10年後の未来」を考えてみてはいかがでしょうか。

2016年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>

ヘルスケアのまちづくり ～いま描く、10年後の未来～

九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー 2015



本日は、8月29・30日に開催された九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2015に参加した薬学生2名と看護学生2名にお話を伺いました。

どうして、このセミナーに参加しようと思いましたか？

(林) 私は今3年生なんですが、卒業後は隣の横芝光町にある病院への就職が決まっています。今回のセミナーは「この地域を知る」ことが一つのテーマだったから、将来のためにも今のうちからいろんな経験しておいたほうがいいのかなって思ってた。去年は去年も参加したのになんか思ってたんだけど、去年は一歩踏み出す勇気がなくて……今年こそはって思って参加しました。

(伊藤) その、一歩踏み出さず……って気持ちわかるなあ。私も今回、最初は一歩踏み出せない気持ちだったんだけど、周りのみんなに声をかけたら、みんなも同じ気持ちだったみたいで……(笑)。数人の看護学部の仲間と一緒に参加しました。

それから、大学外の活動にも興味があって……。実は私、地元の茂原市で知的障害者の陸上競技のサポートもやって、ボランティア活動ってわけではないけど、人を支えることに積極的に参加することって、将来看護師になる自分にとってプラスになるのかなって。

(林) 一人じゃ不安って……みんな、同じ気持ちだったんだよね。あと、学部の先生に声をかけられたのも、大きいかったかもね……でも、それがきっかけで受講生としてではなく、「学生スタッフ」として参加が決定しちゃったんだけどね(笑)

(仲佐) 私は薬学部なんですけど、最初から「スタッフ」として参加してみたいなって思ってたんだ。自分たちで色々企画して……普通の学生生活では、あまり経験できないことだらうなって。とにかく大学生活をモラトリアムっていうのかな……淡々と過ぎていく毎日で終わらせたくないなって日々思ってたから、ホントいい機会かなって。

(平賀) みんなは「スタッフ」として参加してたんだよね。僕はこれの中では、ただ一人「一般参加者」ってわけだね(笑)僕は……正直、たまたま開催直前に先生に声をかけられて……それまでは正直このセミナーに参加するって意図は全くなくて……おもしろいんだけど(ムズ)でも、他学部生との交流とか、他大学の学生との交流とかって言うのは漠然と興味があったんだけど、実際は……。何かきっかけや機会がないと……みんなが言う、最初の一歩が踏み出せなかったって気持ちはよくわかるな。

(林) でも、私もそうだけど結局……勉強がとか、課題がとか言って一歩踏み出せない「言い訳」を自分の中で作っちゃってるんだよね(笑)自分でもわかってることなんだけど……そんな自分の壁っていうのかな、これから一つずつ壊していかなきゃいけないって……今回、このセミナーに参加できたのは、これからの「新しい自分」への一歩になれたのかなって思います。

(平賀) ホント、そうだね。

スタッフとして参加した方が多いみたいですが、何か苦労はありましたか？

(仲佐) 正直ホント、夏期セミナーが無事終了してホッとしています(笑)。最初に学生スタッフが招集されたのは4月の下旬でしたが、結局自分たちの役割が決定したのはセミナー当日の2週間くらい前です。(伊藤) ホント、いろいろ大変だったよね。学生スタッフと実行委員会との間で十分な意思の疎通ができていなかった時期もあったりして……。私たち一人ひとりが学生スタッフとして責任感を持たなきゃいけなかったんだけど、どこかでリーダーシップ取れる人に依存しちゃって……。

(林) そうだね。自分たちの意思で参加したはずなのに、仲間に頼りきりになっちゃってた時があったんだよね……ホント、反省です。

(仲佐) でも、チームの士気っていうのが雰囲気ってホント大事だね。学生スタッフでの活動がなんか上手くいってないと、僕自身のやる気も落ちてきちゃって……そんな時こそ、チームを引っ張れるようにならなきゃいけないんだけど……。

(林) でも、自分たちの役割が明確になり、セミナーでも一つのセッションを担当することが決まって、そのための準備をいろいろみんなで考えて……。結果的には、みんなのつながりも強くなったと思うし、いい経験ができたなって思ってるんだ。

(伊藤) いい経験って意味では、ホントそうだね。私はセッションで発表しなければいけなかったから、セミナーが始まる前から緊張しっぱなしで(笑)。上手くやろう、上手くやんなきゃって気持ちが強くなりすぎちゃって……。慣れもあるんだろうけど、これまで大勢の人前で話した経験がなかったから。

(平賀) でも、ちゃんと発表できてたじゃん。僕は参加者として聞いていたんだけど、「地域の保健福祉を支える地域住民」についての発表だったんだよね。たとえばセブイレブンのお届けサービスが、高齢者の見守りの一助を担ってるって初めて知ったことだし、なんか「地域医療」っていう特別な専門家が担うものかと思ってたけど、ホント身近な人が身近な人を支援することで……人と人とのつながりこそが地域医療なんだって伝わって来たよ！

(伊藤) そう言ってもらえるとホントうれしいな！(林) 長寿会の会長をされている方も、すごくステキだよ。すぐ周りの人を大事にされていて……老者支援って言ったら失礼になっちゃうかもしれないけど、ご高齢の方同士のネットワークをホント上手に築いていて……。 「この地域を世界に誇る長

寿地域に！」って感動しちゃった。

(仲佐) セッションの事前準備の一環でこういった方々から直接お話を伺う機会が得られたのも、スタッフとして参加したからだね。まあ、いろんなゴタゴタもあったけど、振り返ってみればいろんな経験ができてってことなんだよね。

セミナーに参加して、皆さんが感じたこととは何ですか？

(平賀) ほんのちょっとだけど、「地域」の有り様がわかったような気がします。いろんな人との出会いや触れ合いがとても新鮮だったし、でも一方で、自分の課題も見えた感じで……大学でもグループワークとかは結構やってきたつもりだったんですが、「初めて」出会った人たちとの協働作業は、なかなか思うようにはいかなかった……。

(林) ホント、大学とは異なる環境での出会いはいろんなこと考えさせられるよね。私は学生スタッフでもそうだったし、セミナーのいろんなセッションでも「リーダーシップ像」っていうことをホントに考えさせられました。自ら引っ張るタイプの人や調和を大事にする人、ちょっとエゴイスティックな人も……(笑) いろんな人が見えて、でも私は調和を重んじて周囲に配慮できるリーダーになりたいなって思いました。

(伊藤) 私は責任感かな？ 学生スタッフを通じて参加する皆さんに対して不備が無いようにって、いつも考えてたんだ。グループワークなんかで沈黙が続けば、自分がブレイクしなきゃって……。あと、私もいろいろな方に触れて、刺激ももらえたっていうのかな……。 当たり前だけどみなさんそれぞれの視点っていうのか、価値観っていうのか。

(仲佐) ホント、千葉大や獨協医大の学生の考える力っていうのかな、物事を客観的にとらえる力とか、まだまだ自分は勉強不足だなって。自分にはないスキルを持ちえた人との出会いは、自分を成長させてくれるよね。でも正直、今回のセミナーでは「いま描く、10年後の未来」って……。 将来のまちの景色は見られなかったけど、「見ることができなかった」って自分で言えることも成長なのかな？って思うよ。

(伊藤) 私の住んでるまちも、この九十九里とあまり変わらない感じだし、こういうセミナーを通じて、「生活するまち」を知ることで重要なんだよね。将来は薬剤師、看護師、職種は違ってもみんな地域に生活する人達を医療や保健福祉の面で支えていかなきゃいけないんだから、まずはそこで生活する人達を知ること、その地域の問題を認識できる力を養わないと。

(平賀) それぞれに課題と成長が見えたっていうのは、ホントこのセミナーに参加してよかったってことだね。僕は来年も参加しようかって思ってる。できれば今回は担当しなかったスタッフとして。

(仲佐) 平賀さん、来年やるんですか？ だったら僕も……。

(林) あれ？ 人に依存しないんじゃないか？(笑)

(仲佐) はは、そうでしたね(笑) でもこうやってみんなとも知り合えたり、これからはよろしくお願います！

(平賀) そうだね。ふだんはあまり看護の学生とは接点なかったし……。 まずは、飲みながら反省会でもしますか(笑)

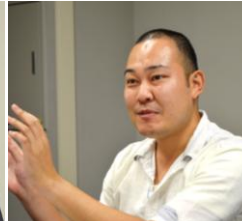
(林・伊藤) 行きましょう！



林 佑美(看護3年)
匝瑳高校出身(千葉県)



伊藤 裕恵(看護3年)
茂原高校出身(千葉県)



仲佐 祐希男(薬学2年)
茂原工業高校出身(千葉県)



平賀 汰一(薬学3年)
土気高校出身(千葉県)